



招提北中だより

枚方市立招提北中学校
H29. 7. 4 (火)
発行者：校長 山本俊夫

一学期期末テスト

6月28日(水)～30日(金)に一学期期末テストが実施されました。1・3年生は8教科、2年生は7教科でした。

1年生にとっては中学校での「定期テスト」も2回目ですが、前回の中間テストの時と比べると各教科内容的に少し難しくなってきたので、結果はどうでしたか。日々の予習・復習の大切さに気づいたのではないのでしょうか。中学校では「受け身」の学習姿勢ではなく「自分から学んでいく」姿勢が大切です。「宿題(白プリやドリルなど)が出ないから学習しなくていい」ということではなく、本校でも取り組んでいる「自学自習ノート」や「自学プリント」に対して、自ら進んで取り組んでいくことを奨励しています。また、「放課後自習教室」も強制参加ではなく、自らの意思で参加するようにしています。テスト結果はもう返されたとは思いますが、できなかった部分については放っておくのではなく、その都度しっかり理解しておき、「わからない」ところを残しておかないようにしていきましょう。



校区小学校授業参観

6月29日(木)
の午後に、船橋小学
校へ本校の先生方が

授業参観に行きました。「小中一貫事業」の一つの取組みとして行われています。中学校の教員が小学校へ、小学校の教員が中学校へそれぞれ「授業参観」に訪れ、小学校・中学校でどのような授業が展開されているか参観・交流し、お互いの良い点を学びあうことで授業改善につなげようとするものです。3学期には小学校の先生に本校に来ていただき、授業参観・研究授業を行うことになっています。

私が見た授業の中で、特に印象的だったのは1年生の授業でした。「おおきなかぶ」というお話の学習をしていましたが、先生がかぶ(本物?)と手作りのビニール袋で作った「大きなかぶ」や動物の絵を準備して、うまく実際にイメージさせるような工夫をされ、時々「うんとこしょ、どっこいしょ」とみんなで大きな声を出し、手振り身振りを交えながら楽しい授業をしていました。また、先生は黒板の字もていねいに書き、子どもたちもそれをノートにゆっくりとていねいに書いている姿には感動。そして最後に「今日の感想(ふりかえり)」を書かせ、子どもたちも感じたことを素直に書いていました。まだ入学して2ヵ月半であるにもかかわらず、ここまで整然と集中力を途切らさずに子どもたちが「学び」に向かっている姿には、「学び」の原点を見たように思いました。

本校も「学びに向かう力」の育成に向けた授業作りに取り組んでいます。今回の授業参観で感じたことを参考にして、「学び」のある授業づくりの研究を進めていきたいと思えます。



先進校視察

6月17日(土)は愛知県小牧市立応時中学校へ、27日(火・創立記念日)は岐阜市立東長良中学校へ、本校の

先生方数名と一緒に訪問させていただき、学ぶことができました。

応時中学校は1限目が保護者対象の土曜参観で、2限目以降は公開授業・研究授業が行われていました。この学校ではすべての教室の机配置が「コの字型」で、教室の前には「授業は真剣勝負」という言葉が掲げられていました。全学級を見て回ったのですが、参観・公開授業ということもあったかもしれませんが、どの授業においても生徒のみなさんが積極的に学び合い、お互いに高め合う姿が見られました。東長良中学校は普段の状態を見に行かせていただきました。この学校の特徴は、すべての生徒が、それぞれの役割(本校でいえば代・専や各クラスに位置づけられている教科係などの役割)に対して責任感、使命感を持って取り組んでいるところです。私が見た英語の自習の時間では、先生がいなくても英語係が前に出て本日の自習の流れを説明し、中心となって「学習活動」を行っていました。

どちらの学校にも共通して見られたことは、「学習活動」や「係活動」等に対して、生徒自らが積極的に真剣に、しかも生き生きと取り組んでいる姿です。本校にも取り入れてみたい取組みもたくさんありました。両校の様子を見たときに、本校の生徒の皆さんもこれなら絶対できる、やってやれないことはないと感じるものもありました。同じ中学生ですからね。

本校の先生方は、生徒の皆さんが持っている力を引き出し、将来にわたって必要とされる「生きる力」や「学びに向かう力」をどのようにすれば育成することができるのかと、日々真剣に考えてくれています。今回の視察で学んできたことも、本校の実態に合わせてアレンジし、様々な教育活動に取り入れていこうと考えていますので、ご期待ください。



平和講演会

7月3日(月)に、「平和学習を支える会」の樋口良次さんをお招きして「平和講演会」を実施しました。樋口さんは昭和7年生まれで現在85歳。1945年3月13日夜中～14日にかけて受けた「第1回大阪大空襲」の被災者です。当時樋口さんは6年生。滋賀県近江八幡の方で疎開をしていたのですが、3月14日に卒業式があるということで大阪に帰ってきていたときに空襲に遭いました。多くの身内を亡くされたそうです。戦後72年もたち、当時を知る方も高齢化している中での貴重なお話でした。とても暑い体育館の中でしたが、手作りのパワーポイントのスライド(6年前から作られたそうです。79歳から!)を映しながら、ゆったりと力強くお話されている樋口さんには、戦中戦後生き抜いてきた気迫を感じました。

今の日本は、かつて戦争をしていたなんて想像できないほど平和です。しかしながら、世界的に見ると、絶えず戦争やテロが起こっており、遠い昔の話ではありません。樋口さんのお話を聞き、今の日本があるのも、先人たちが、戦争(太平洋戦争)によって犠牲となった多くの死を無駄にせず、努力して築き、維持してきたものだということをしっかりと心の刻み、これからも平和がつづく世の中にしていかなければならないことを強く感じました。

